

(注) 本報は、主に現地紙における報道を当館限りで日本語でまとめたものです。記事の中の客観事実は日本政府や現地政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承ください。

ベナン月報(2023年9月)

【内政】

- 9日、与党・共和党(BR党)は臨時総会を開催し、ビオ・チャネ開発及び省庁間連携担当国務大臣を党首に選出した。(11日、Le Matinal 紙他)

【外政】

- 1日、中国を国賓訪問中のタロン大統領は、習近平・中国国家主席と会談した。(4日各紙)
- 27日、津川貴久大使(当時)離任晩餐会が外務省主催で開催され、アジャディ・バカリ外務大臣他関係閣僚4名が出席した。(28日、La Nation 紙)

【治安】

- 17日、ウンベジ政府報道官は、ベナン北部に仏軍基地が存在するとの噂を否定し、ベナン国内に仏軍基地は存在しないと述べた。(19日、Le Matinal 紙他)
- 23日、ウエメ(OUEME)県セメ・ポジ(Sèmè-Kpodji)で、密造ガソリンの倉庫が爆発し、35名が死亡、20名が重傷を負った。(25日各紙)

【経済】

- 13日、JICAベナン支所は、長期研修生4名の壮行会を実施した。(15日、Le Matinal 紙他)
- 14日、在ベナン日本国大使館は、令和5年度草の根・人間の安全保障無償資金協力「アラダ市アバヌ中学校校舎建設計画」の贈与契約署名式を実施した。(15日、Le Matinal 紙他)

【文化・その他】

- 9日、コトヌ市内で、第50回世界ペタンク選手権大会が17日までの日程で開幕し、全世界から38チームが出場した。(11日、La Nation 紙他)
- 第45回世界遺産委員会において、トーゴ北部及びベナン北部にまたがる世界文化遺産「クタマク、バタマリバ人の土地」の拡張が承認された。(18日各紙)

※下記内容は、La Nation 紙、Le Matinal 紙、L'Événement Précis 紙、L'Économiste 紙および Le Matin Libre 紙の記事を元に記載したものです。

【内政】

- 9日、与党・共和党(BR党)は臨時総会を開催し、ビオ・チャネ開発及び省庁間連携担当国務大臣を党首に選出した。(11日、Le Matinal 紙及び L'Événement Précis 紙)
- 13日、ベナン政府は閣議で、ノクエ湖周辺都市圏における街頭広告の規制に係る大統領令案を採択した。3か月の猶予期間後、モニュメント、街灯、電柱、道路標識等への貼り紙が禁止される。(14日及び15日各紙)

【外政】

- ・ 8月31日、タロン大統領は、ワダニ経済・財務大臣、アジャディ・バカリ外務大臣及びアスマン産業・商業大臣と、国賓訪問先の中国に到着し、鄧励・外交部副部長他の出迎えを受けた。(1日、La Nation 紙、Le Matinal 紙及び L' Economiste 紙)
- ・ 1日、タロン大統領は習近平・中国国家主席と会談した。会談後に発出された共同声明では、ベナン・中国関係の戦略的パートナーシップへの引き上げが表明された。(4日各紙)
- ・ 1日、人民大会堂において、保健、税関、人材育成等の様々な分野におけるベナン・中国間の協力協定が計13本締結された。(4日各紙)
- ・ 2日、タロン大統領は、訪問先の中国にて、ベナンに入国する中国人への査証免除の導入を表明した。(4日、Le Matinal 紙及び L' Evénement Précis 紙)
- ・ タロン大統領は、G20首脳会合開催(9日及び10日)を前に、サンチェス西首相(EU議長)、アスマニ・コモロ大統領(AU議長)他計12名の連名での寄稿に署名した。(12日、La Nation 紙)
- ・ 12日、モロッコ訪問中のアジャディ・バカリ外務大臣は、ブリタ・モロッコ外務大臣と会談した。会談後、両国間の友好協力関係強化に係る共同声明が発出された。(13日、Le Matinal 紙、14日、La Nation 紙)
- ・ 11日及び12日、ヒンカティ・ベナン関税局長はナイジェリアを公式訪問し、アデニイ・ナイジェリア税関庁長官代理と会談した。(14日、Le Matinal 紙及び L' Economiste 紙、18日、L' Evénement Précis 紙)
- ・ 15日、在ベナン日本国大使館は、津川貴久大使(当時)離任レセプションを開催した。(26日、L' Economiste 紙、28日、L' Evénement Précis 紙)
- ・ ベナン政府は、18日付トゥーレイ西アフリカ諸国経済共同体(ECOWAS)委員長宛書簡で、ベナン・ニジェール間人道回廊は9月5日に設置済みと主張した。(19日、Le Matinal 紙)
- ・ ベナンは、バーレーン王国及びグレナダとの国交を締結した。(25日、Le Matinal 紙)
- ・ 25日、独大使、オランダ大使、ルクセンブルク臨時代理大使及びチャド総領事が、信任状写しをアジャディ・バカリ外務大臣に提出した。(26日、La Nation 紙、28日、Le Matinal 紙及び L' Evénement Précis 紙)
- ・ 27日、津川貴久大使(当時)離任晩餐会が外務省主催で開催され、アジャディ・バカリ外務大臣他関係閣僚4名が出席した。(28日、La Nation 紙)

【治安】

- ・ 4日、共和国警察は、警察官による不当な金銭要求の事例を共和国警察に通報するよう呼びかけた。(5日、Le Matinal 紙及び L' Economiste 紙、6日、L' Evénement Précis 紙)
- ・ 7日、コトヌ港に寄港中の仏海軍強襲揚陸艦「ミストラル」船上で、EUによるギニア湾岸諸国海軍の能力強化研修「SIREN」に関する記者向け説明会が開催された。(7日、La Nation 紙、8日、L' Evénement Précis 紙)

- ・ 7日付声明で、保健省は、新型コロナウイルス(オミクロンXBB系統)のベナンにおける流行の噂を否定し、同ウイルスワクチンの接種を呼びかけた。(8日、Le Matinal 紙)
- ・ 17日、ウンベジ政府報道官は、ベナン北部に仏軍基地が存在するとの噂を否定し、ベナン国内に仏軍基地は存在しないと述べた。(19日、Le Matinal 紙、22日、L'Événement Précis 紙)
- ・ 23日、ウエメ(OUEME)県セメ・ポジ(Sèmè-Kpodji)で、密造ガソリンの倉庫が爆発し、35名が死亡、20名が重傷を負った。(25日各紙)
- ・ 28日、コトヌ港に寄港中のスペイン海軍哨戒艦「トルナード」船上で、ギニア湾の海上安全確保に向けたEUの行動に関する記者向け説明会が開催された。(29日、Le Matin Libre 紙)

【経済】

- ・ フィッチ・レーティングスは、ベナンの外貨建て長期発行体デフォルト格付を「B+」、格付けアウトルックを「安定的」にそれぞれ据え置いた。(13日及び14日各紙)
- ・ 13日、JICAベナン支所は、JICA長期研修生4名の壮行会を実施し、青木利道支所長が出席した。(15日、Le Matinal 紙及び Le Matin Libre 紙)
- ・ 14日、在ベナン日本国大使館は、令和5年度草の根・人間の安全保障無償資金協力「アラダ市アバヌ中学校校舎建設計画」の贈与契約署名式を実施し、津川貴久大使が出席した。(15日、Le Matinal 紙及び L'Économiste 紙、18日、L'Événement Précis 紙)
- ・ 15日、世界銀行は、民間セクター主導の経済成長支援等を目的とする、国際開発協会(IDA)による2億3000万米ドルの対ベナン資金供与を決定した。(19日及び20日各紙)
- ・ 19日、国家標準化・計量・品質検査局は、アボメ・カラヴィ(Abomey-Calavi)市内のガソリンスタンドで、給油機上の表示量と実際の販売量の一致確認を実施した。(20日、Le Matinal 紙)
- ・ 27日、3兆1993億CFAフラン(約7722億円)規模の2023年度予算案が閣議決定された。(28日各紙)

【文化・その他】

- ・ 4日及び5日、ベナン柔道連盟は、アフリカ柔道連盟主催の国際審判セミナーに参加した。また、6日及び7日、同連盟総会に出席した。(12日、Le Matin Libre 紙)
- ・ 9日、コトヌ市内で、第50回世界ベタンク選手権大会が17日までの日程で開幕し、全世界から38チームが出場した。(11日、La Nation 紙及び Le Matinal 紙及び L'Événement Précis 紙)
- ・ 12日、第50回世界ベタンク選手権大会において、ベナンは男女混合ダブルスで金メダル、男子ダブルスで銀メダルをそれぞれ獲得した。(13日、Le Matinal 紙及び Le Matin Libre 紙、14日、L'Événement Précis 紙)
- ・ 第45回世界遺産委員会において、トーゴ北部及びベナン北部にまたがる世界文化遺産「クタマク、パタマリバ人の土地」の拡張が承認された。(18日各紙)
- ・ 18日、セメ・シティ(Sèmè-City)において、ベナンで初となる粉末X線回折計の運用が開始された。(19日、La Nation 紙、20日、Le Matinal 紙)